

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2023年7月3日】第171号



水泳学習も順調に

6月19日(月)から始まった水泳学習。最初の週には気温と水温が不足で実施できなかった3年生と1年生も、今週はお天気に恵まれました。どの学年も、まずは1回ずつの水泳学習ができたことになります。とはいえ、農大稲花小の水泳学習は、泳力を競うものではありません。水に慣れることから始めて、各学年の学習目標に合わせて進めています。

なお、体育の学習では安全第一を考え、服装や持ち物が整っていない場合は、見学の措置をとっています。水泳の授業も同様です。プールに入るのを楽しみに学校に来たけれど、残念ながら見学となった子どももいます。服装や持ち物などの準備が整っていなければ参加できない場合があるのは、ほかの授業や校外学習などでも同じです。また、教員の指示に従えない子ども、グループ活動に協力できない子どもにも、教育的な配慮からの措置をとることがあります。これは友だちの学習を妨げたり、危険にさらしたりする恐れがあるためです。学習の成果だけでなく、学びに向かう心構えこそがまず大切であることを理解した子どもたちが、真剣に授業に取り組んでいる姿は素晴らしいものです。

カラフルザリガニ

6月27日(火)、3年生の稲花タイムでは、東京農業大学 教職課程 武田晃治教授に、カラフルザリガニの授業をしていただきました。カタツムリに倣った汚れにくい外壁、カワセミの嘴からは新幹線の先頭車両など、私たちが生き物の特性から多くを学んでいるというお話から授業は始まりました。さらに、生き物の色の話に進み、実験材料であるザリガニやその活用、さらには環境の問題についても学んでいきました。2時間目は、武田先生が研究している白色のザリガニをカラフルザリガニに育てる実験のため、色素入りの餌作りをしました。ラテックスの手袋、乳鉢と乳棒、そして色素を使っの餌作りです。最後はザリガニが食べやすいように小さな粒にして、餌を仕上げました。

休み時間になると当番の子どもたちが、白いままで育てる餌、赤く育てる餌、黄色く育てる餌を区別しての給餌と水替えのために理科室にやってきます。脱皮したザリガニも見ることができました。最初は誰もが恐る恐るという様子だった水替えも、上手にできています。1週間たったら、ザリガニの色はどのように変わっているでしょうか。

留学生と話そう

6月28日(木)の稲花タイムでは、5年生の教室に東京農業大学で学ぶ5人の留学生が来てくれました。アフガニスタン、インド、インドネシア、ブラジル、メキシコからの留学生が、パワーポイントを使って母国の説明を英語でしてくれます。美しい景色、美味しそうな食べ物やお菓子、そして珍しい動物や昆虫に、子どもたちはすっかりひきつけられていきます。すべての英語がわかっ

ているわけではないはずなのですが、知りたい気持ちが集中力の源になっているようです。メキシコのお金を触ったり、インドネシア語での挨拶を習ったりもしました。アフガニスタンがどこにあるのかも知らなかった子どもばかりでしたが、意外に大きな国土を持っていることにも驚かされました。インドでは国の中でも言葉が違うので共通語は英語であること、ブラジルはアマゾン川などがあるだけでなく、砂漠も雪の降る場所もあることなどを知って驚いたようです。そのあとは、グループごとのフリートークでした。昨年も同じように留学生との交流をしてきた子どもたちです。今年は自分の聞きたいことを聞くだけでなく、留学生からの質問にも答える双方向の会話に期待しましたが、どうだったでしょうか。留学生からは、多くの子どもたちが明るく、英語での質疑にも積極的で、楽しい時間になったという感想が聞かれました。子どもたちには、英語で交流する楽しさだけでなく、世界にはいろいろな国や暮らしがあることを知り、さらに、留学生が家族と離れて自分自身や母国の将来のために勉学に励んでいることなどに思いを馳せてもらえたらと願っています。

3つのゼロ

5年生は6月20日(金)に、ノーベル平和賞受賞者である Dr.M.Yunus の業績について学びました。動画も活用しながら、バングラデシュの貧しい人々の暮らしを救うためにマイクロファイナンスという考え方に基づいて作られたグラミン銀行の話、ソーシャルビジネスとは何か、さらに、日本にも子どもの貧困問題があることなどを知る機会としました。「貧困」、「失業」、「富の不均衡の無い社会」(3つのゼロ)はどのようにしたら実現できるのか、子どもたちなりに考えてもらい、次の授業につなげる予定です。

小菅村宿泊学習

6月28日(水)から30日(金)まで、4年生の小菅村宿泊学習が2泊3日で実施されました。

- ①豊かな自然の中での野外活動を通して、自然の恵みや美しさを感じ、自然に親しむ心や自然を愛護する心情を培う
- ②集団宿泊生活を通して、規律、協力、思いやり、奉仕の心を培う
- ③自然の中で、自ら考え行動する力を育てる
- ④世田谷区を流れる多摩川の源流域に位置する小菅村での体験活動や小菅で生活する方々との交流等を通し、水道水源林の役割、それを守る人々の思いに気付く

上述の4つを目的としています。子どもたちは事前学習を積み重ねたほか、宿泊班と活動班を組織して班活動の準備も行ってきました。

初日は、東京都西多摩郡奥多摩町にある山のふるさと村を訪問し、同町の宿に宿泊しました。2日目はいよいよ山梨県小菅村に移動し、小菅村 YLO 中央公民館での入村式の後、ヘルメットやライフジャケットを装着しての源流体験と村内散策・木工体験を組ごとに交代で行いました。最終日は再び奥多摩町にある小河内ダム・水とみどりのふれあい館見学の後、無事に小学校に帰ってきました

昨年に続いてお世話になった村の方々、NPO 法人多摩源流こすげの皆様ほか、ご関係の方々に

は、感謝申し上げます。宿泊学習における水や村の暮らしにかかわる学びの成果はこれからのワークシートや発表会へとつながっていくことでしょう。うれしいことに帰ってきた子どもたちからは、”冒険“という声が聞こえ、宿泊やいろいろな体験によって自信をつけ、また友だち同士の関係が一層深まった様子が感じられました。一方で、荷物の整理や身支度などが十分にできず集団生活でやや遅れをとった子どもたちがいたことも事実です。この宿泊学習を機会に、生活面においてもより一層の自立・自律の心が養われることを期待しています。

東京農業大学稲花小学校

校長 夏 秋 啓 子